

## 25 森林浴コースの設定とPR活動について

蟹田営林署 ○ 中村章二  
松本幸雄

### 1 はじめに

森林に対する国民の関心が高まるなかで、当署においても営林署のPR、森林の価値重要性、さらには国有林野事業についての理解を深めるべく森林ウォーキングや森林教室等のイベントを開催しているところである。

一方、昨年7月に地元中学生が社会学習の一環として、当署を職場見学に訪れた際、営林署の業務内容や森林に対する認識が低いということに少なからずショックを受けたものであり、改めてPR活動に対する努力不足を痛感した。

当署でイベントを開催する際、その都度開催箇所を選定し、その季節に応じて内容を決定していたことから、イベント内容の趣旨が一貫しておらず、加えて適地の選択に時間を費やし、結果として印象の薄いものとなっていたのではないかと考える。

そこで、今回、各種イベントの内容充実、更にはPR活動の一助になればと森林浴コースを開設したので、その概要とそのコースを利用して昨年秋に開催した「初秋の森林浴ウォーキング」の様相、それらを基にした今後の森林浴コースの活用方法について報告する。

### 2 開設箇所の選定

#### (1)開設に当たってのねらい

まず、森林浴コース開設に当たって、今後のイベントの方向性を決めることが必要と考えた。

もちろん、あらゆる方々の森林・林業に対する理解を深めて貰うことは当然であるが蟹田営林署としての基本スタンスを固めないままに取り組むことは、過去の轍を踏むこととなると考え次の2点をねらいとした。

#### ア. 対象者

地元小中学生を対象の中心とした。このことは、過去の単発的なイベントでは森林・林業に対する系統立った理解が得られないため、在学期間を通じてレベルに合った内容のイベントを実施することが可能となるのではないかと考えたことによる。

#### イ. 内容

森林に触れて親しむことに終始するのではなく、営林署の業務内容、森林の機能、林

業全体へと系統立った内容のイベントであること。

必ずしも教育的なことにこだわらないが、森林を通じて地元について考える何かのきっかけとなる内容であることが望まれる。

## (2)開設箇所選定に当たっての条件

以上のことから、今回開設する森林浴コースは小学校中学年以上を対象とし、営林署の業務内容を通じ国有林野事業について理解を深めることができるコースを開設することとし、そのために具備すべき条件として、5点に留意して適地を選定した。(表-1)

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| ① | 当署の森林の特徴が表われている箇所であること。 |
| ② | 営林署の業務内容がわかりやすい箇所であること。 |
| ③ | 景観の良いこと。                |
| ④ | 山歩きの初心者でも無理なく歩けること。     |
| ⑤ | 交通の便が良いこと。              |

表-1

## 3 森林浴コースの概要

当署管内は、蟹田町及び東青地区1市2村からなり、陸奥湾と中山山脈に挟まれた箇所に位置している。(図-1)

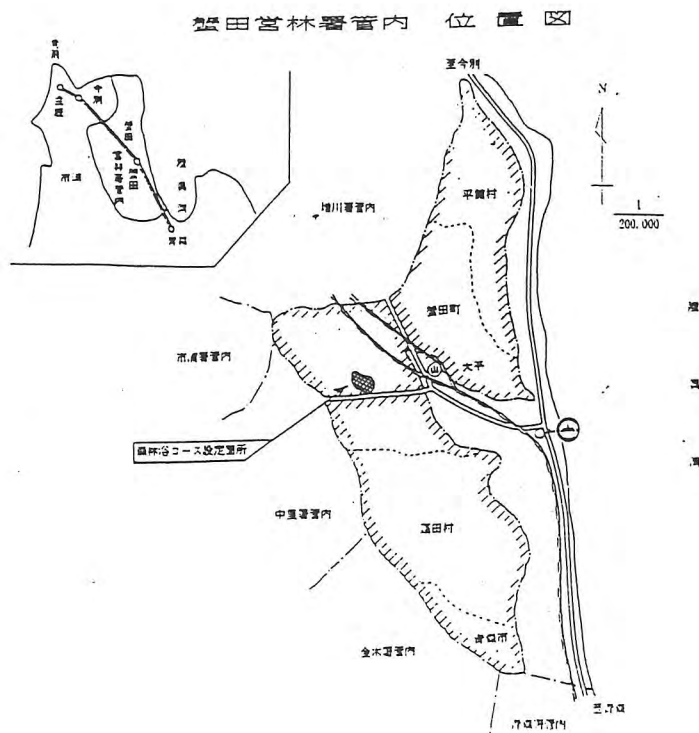


図-1

今回開設した森林浴コースは大平森林事務所管内西小国山国有林148林班内の、15年生のヒバ・ブナを主体とした天然林と、20年生前後の成績優良なスギ人工林から構成された約30ヘクタールの区域に設定し周囲を回るコースと区域を縦断するコースの2コースを設定した。どちらのコースもゆっくり歩いて約1時間程度を要するコースとなっている。

現地へ向かう林道入口までは青森市から車で約1時間、蟹田町から約20分。県道鯉ヶ沢蟹田線沿線に位置し、歩道入口まで車で乗り入れが可能である。

歩道入口からは、清水股岳、袴腰山などの管内の主要な山々を一望することができ、送電線放牧場などの利活用の状況も遠望できる。

周囲を回るコースはからは主としてスギ人工林を初めとして、択抜施業跡地、分収造林箇所、分収育林設定箇所等の人の手が加えられた森林を見ることができる。

また、縦断コースはヒバ・ブナを主体とした天然林の中を歩くコースとなっており、より森林の自然な姿を見ることができる。(図-2)

さらに、秋にこのコースを利用する際に、キノコ狩りも体験してもらおうという目的から、シイタケ・ナメコのホダ木を散在させてみた。この時、より自然な発生を再現できないかという点も考慮に入れた。

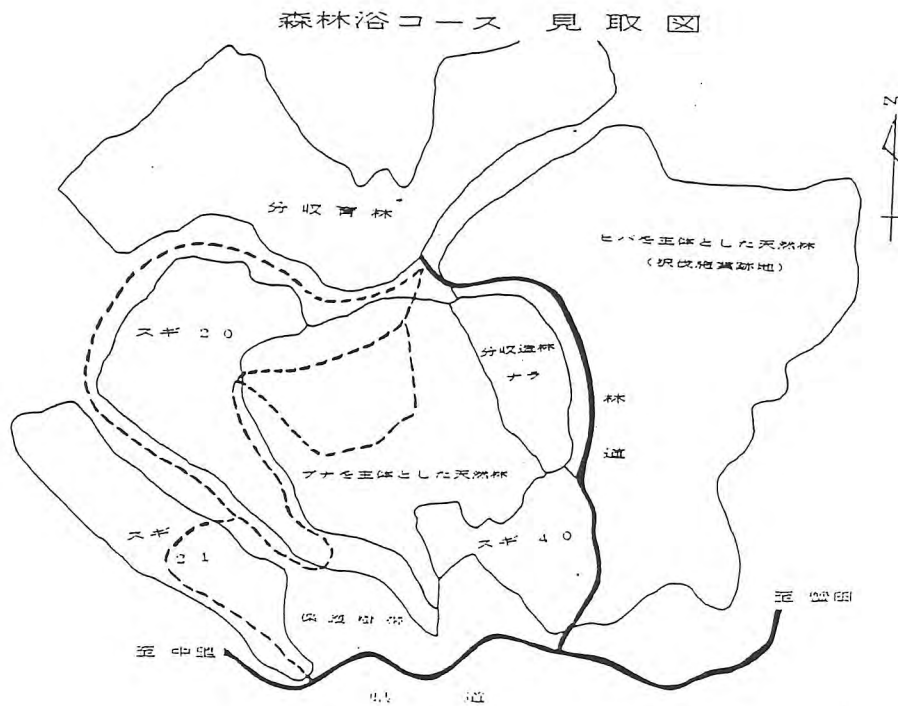


図-2

#### 4 テストケース

森林浴コースを開設後、テストケースとして当署の恒例行事である「緑のオーナー友の会」会員を対象とした森林浴ウォーキングを平成5年10月24日に開催した。（写真-1・2）

参加者は青森市在住の友の会会員とその家族合計19名、年齢層は平均50歳代であり、使用したコースは天然林の中を縦断するコースを使用した。

緑のオーナーの皆さんは、森林に対する興味も関心も高い方が多いが、そ

- ① 案内板や解説を書いた看板がほしい。
- ② 休憩する施設がほしい。
- ③ 樹木や植物の名前を標示してほしい。
- ④ 距離が短い。
- ⑤ 四季を通じた移り変わりを見てみたい。
- ⑥ 山菜、キノコの採取ができるとよい。

表-2

れでも天然林に直に触れる機会が少ないせいか好企画であったとの言葉をいただいた。しかし、寄せられた意見の中には、表-2のような要望や意見も寄せられた。

そこで、これらの意見と当署の基本スタンスを考え合わせ、今後の取組指針を検討することとした。

#### 5 考察

2の(1)で述べたように、本コース開設の目的、つまり国有林野資源を活用して地場産業である林業や地元への関心を高めて行くことであり、必ずしもレクリエーション的な要素のみを追求するものではない、という当署における方向性との調和点を見い出して本コースをより充実したものとしていくことが必要なことから、表-3の5点を今後の取組の指針とした。

①と②については本コース開設の目的である森林・林業や地元への関心を高めると言うことからレクリエーション的な要素よりも、本当

- ① 人為的な施設・設備を多く設置しない。
- ② コースガイドとなるようなテキストを作成する。
- ③ 同一参加者による複数回のイベントの企画を検討する。
- ④ 小中学校のカリキュラム、夏休みの自由研究等への活用。
- ⑤ 営林署におけるインストラクターの養成。

表-3

の森林の姿を見てもらうことを第一に考え、施設・設備の設置は最小限に止めるべきであり、特徴的な点についてはテキストを作成することにより対応することとする。

また、③と④については、営林署のPR活動を目的として、森林浴ウォーキング・森林教室以外にも林業体験等のイベントを企画する必要があるのではないかと考えたものである。その際に、今回作成した森林浴コースをどのように活用できるかは今後の研究



課題としたい。

さらに、より充実した内容のイベントとするためにも、インストラクターの要請は是非とも必要である。

## 6 おわりに

当署管内には特筆するような観光資源もないことから、森林浴コースを開設し当署のPRやイベントに役立たせようと考えたものであるが、森林浴コースの開設に9月下旬まで時間を費やしたことから、設定したコースを活用してのイベントは、森林浴ウォーキングを1回だけに止まってしまい、今後へ反映すべき意見の収集が少ないものとなってしまった。加えてPR活動の考察までに至らなかったことは大変残念に思う。

今後は、今年の経験と今回発表するまでの考察を踏まえ、イベントを開催し、意見の収集に努め、より充実したものへと発展させていきたい。



写真-1



写真-2